

最近話題の新型インフルエンザによる感染とかサーズや鳥インフルエンザ、B型肝炎、C型肝炎など恐ろしい病気が流行っています。

歯科医院における交差感染の予防策

歯の治療を受けた後にうがいをする結構、血が混ざっているのを感じた方も多いと思います。

そうなんです。歯科治療は歯を削る場合でも、歯肉の傍を削ったりすると、結構出血するものなんです。

そこで、問題になるのが、交差感染の問題です。つまり前の人の細菌やウイルスを後の人に移してしまうことです。

近年では、麻薬中毒の人の中での注射の使いまわしによるエイズウイルスの感染なども、医療行為ではありませんが、交差の一種でしょう。

エイズウイルス等はあまり感染力はないですが、最も恐ろしいのが、B型肝炎ウイルスのE抗原プラスの場合の人の血液による感染です。これが、今のところ、最も注意しなければならない感染症であり、これを感染させないように、衛生面に配慮していれば、まずは他の細菌やウイルスの交差は有り得ないと思えます。特に、最近話題になっているC型肝炎ウイルスはB型に比べれば格段に感染力は弱いですが、**つまりB型肝炎対策さえしっかりやっておけば他の感染症の心配は無いと言えます。**

このB型肝炎ウイルスのやっかいなところは、通常の煮沸消毒(100度)位では、死滅しません。通常気圧下においては、160度位、2気圧ですと、135度でしたら5分間で死滅してしまいます。(最近の厚生労働省からの文章を見ると、そこまでしなくても死滅すると書いてありました)

血液に直接触れたりした器具に対しては、上記の方法で全ての微生物を死滅させてしまう方法で管理しなければなりません。この一連の操作を滅菌と言います。

安心して治療を受けていただくために

今、**医療の安全性**が問われています。

エイズや**C型肝炎**の問題は記憶に新しいところです。

歯科医院は安全なの？



実は歯科医院はとても危険な場所です

歯科治療には**出血を伴う処置**が少なくありません。また、**唾液も感染源**となる可能性があります。

歯科治療には数多くの器具が必要です。その中には**消毒・滅菌が難しいもの**がたくさんあります。

特に難しいのがコレ！！



歯を削る機械です。

当医院では、もっとも難しい切削機械の滅菌を行っています

専用の滅菌システム導入

タービンオートクレーブ



消毒と滅菌

○消毒

病原菌微生物を科学的・理学的手段によって死滅させることです。

○滅菌

すべての微生物を完全に死滅あるいは除去することです。

消毒・滅菌機器



○BK 水

まず、使用した全ての器具はこの液に浸して除菌します。

食塩水を電気分解した「除菌・洗浄水」で細菌・ウイルスなど**広範囲の微生物に対して優れた除菌効果を発揮**します。また、作用後は「薄い食塩水」に戻ってしまうため人体・環境への影響はほとんどありません。

○アスコルビン酸で中和して水洗します。



○オートクレーブ(高圧蒸気滅菌器)

121度、2気圧で飽和水蒸気を作り、20分間加熱することで**微生物を完全に滅菌**する装置です。



○基本セット

ステンレスバッド・ミラー・ピンセットなど、**一人一人滅菌されたもの**を使用しています。



○切除器具

歯を削る器具など、使用後に滅菌を行っています。
(オサダ製プチクレーブ)

その他の医療器具

○血液・体液に触れる医療器具に対しては滅菌を行っています。

○血液・体液に触れないものに対しては消毒薬または電解水を使用し、消毒を行っています。

医院で使用する全ての水道水について

流水式紫外線滅菌装置を通過した水を使用しています。